

## 第1章 小学部の取り組み

### 1. 研究に関する基本的な考え方

#### (1) 小学部の教育でめざすもの

生後数分間を経た乳幼児でさえ、もはやものを見ようとしたり、母親を探す動き、音（母親の声をたより）に敏感にしかも的確に反応しているといわれている。自己の生理的な欲求を満たすために動き、運動する。それと並行するかのよう  
に外界の刺激にも正しく的確に反応するようになっていき、感知、弁別する判断も力もついていくといわれている。乳幼児期にあつては、運動がすべての発達の基盤となっているといえる。

一般にこどもは、元気よく動きまわり夢中になって遊ぶ。一人遊びから友達（仲間）との遊びへと遊びや動きは、大きくしかも複雑なものへと広がっていくのがごく普通である。そして、いろんな事柄に興味と関心をもつと同時に体もしっかりとたくましくなり、将来にわたって生き抜く力を獲得していくのである。生き抜く力とは、障害の程度および、その能力に応じた自立をとげ、対人関係をできるだけ円滑にし、自分自身を表現する能力を身につけ、可能な限り楽しい人生を送ることができることと考えている。

そこで、小学部の教育方針として「友だちの中で、よろこんで取り組む子」を目標にかかげて指導にあたっている。遊びや学習の中で意欲的に楽しく取り組みながら日常生活に必要な基本的なことがらを身につけさせることを最重点にしている。

児童達は、知能が低いばかりでなく運動能力も劣り、自己中心的で固執性、依  
頼心が強く逃避的になりやすい。その上、情緒が不安定であり、障害が二次的な障害をうみだし学校生活への適応もむつかしくさせている。遊びでも夢中にな  
って遊ぶことができなかつたり、他とのかかわりをもって遊ぶということが非常に少ないのが障害児たちである。このような児童の指導は、日常生活の中で起こる動きやことばに直接かかわって、しかも、より具体的な内容でなければ生きて働く力とはなりがたい。したがって、生活そのものを中心とした学習指導、即ち生活単元学習、日常生活の指導、教科別の指導、作業学習、特別活動、養護・訓練を教育課程の中に組入れ最重点に指導している。本年は、それに加えてより具体的で実際の強く実感させるための校外体験学習も積極的に組入れて意欲と興味関心を育て豊かな感性を培うようにしている。

障害児教育の基本は、あくまでも個に適した指導でなければならないが集団の中  
でも育っていくようなダイナミックな取り組みも忘れることなく指導にあたる

ようにしている。

## (2) 研究(からだづくり)への視点

### ① 小学部の教育でからだづくりの果たす役割

精神薄弱というのは、単なる知恵遅れだけでなく全体的な遅れである。量や程度の遅れでなくて質的な遅れであるといわれている。これらが発現するのは、からだの動きを通して発現するのであるから、欲求や指示に対して発達に適應した動きができるようになることは、それなりに知的な活動の発達も促進されていると考えたいのである。つまり、小学部におけるからだづくりとは、一人一人の児童の動き(運動)の不自由さの軽減や障害の克服をめざしたからだづくりである。

からだをつくる(身体的な諸能力や感覚運動)ことによって、日常の生活力の向上、学習力、意志的活動の向上という精神的により人間的に活動するところまで見通したものである。自立化や将来の社会生活へ向けての基礎となる力をつけた子どもをめざすものである。乳幼児期では、運動がすべての発達の基礎となっていると学者や研究者の中でもいわれている。本校の小学部の児童にとっても普通の乳幼児の教育以上に動き(運動)を重視しなければならないと考える。発達に即した自然な動きができる子どもとなるように高めていきたい。

### ② からだづくりへ迫る指導法

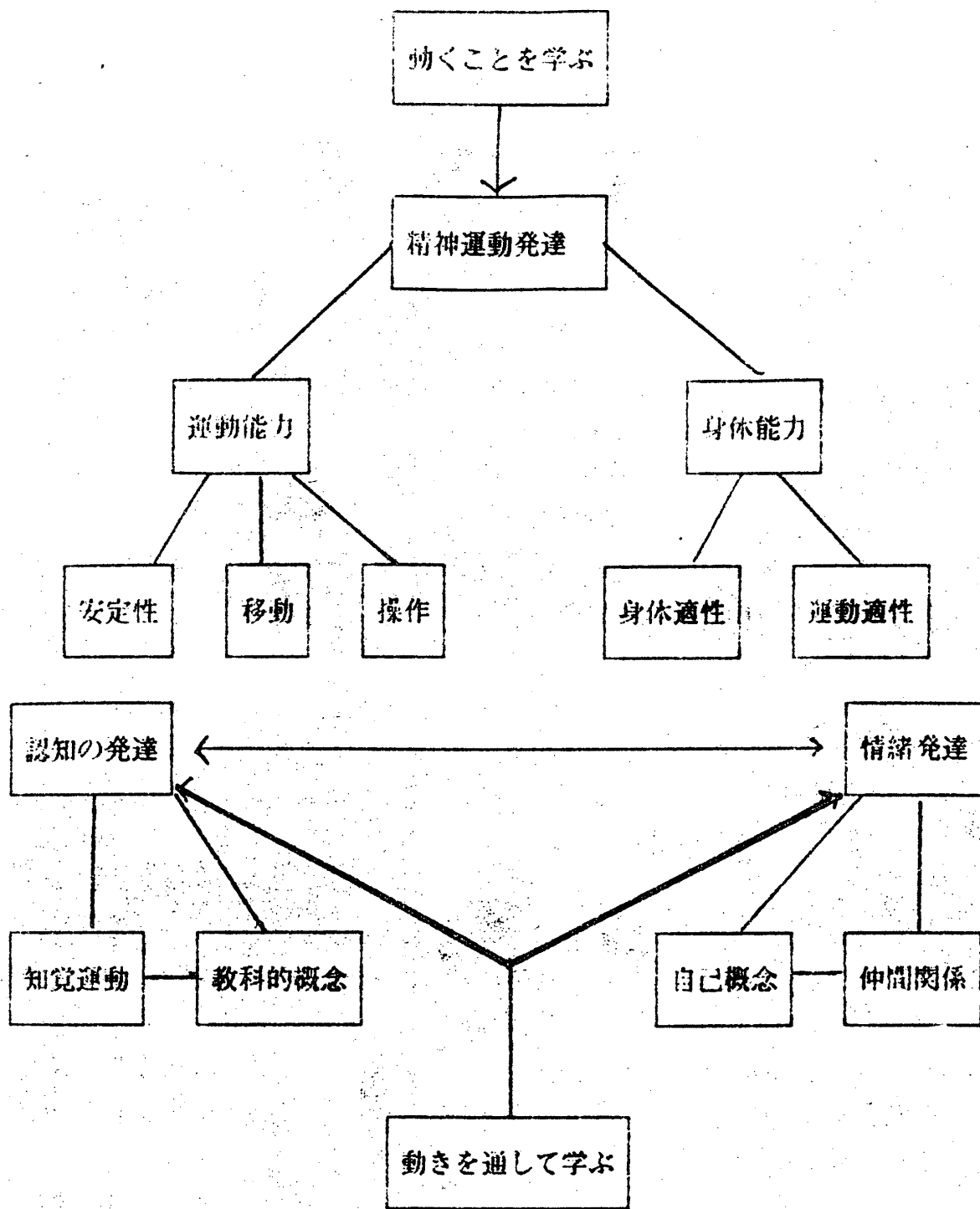
まず、本校の児童達がどの発達段階にあるのか、どのような欠落部分があるのか実態把握が必要であり、次に実態に基づく適切な指導を展開していくという道筋を進めていくことにした。

実態の把握の方法については、以下で詳細は示す。実態に基づいて研究の構想図を全職員で、しかも、長い日数をかけて作り上げできた。この構想図に基づいた指導で有効であるとおもわれる方法にムーブメント教育の理論がある。

ムーブメント教育は、動くことを学ぶ、動きを通していろいろなことを学ぶ、という大きく2つのことをめざしている教育で、小学部のからだづくりの趣旨によくあつたものである。

「動くことを学ぶ」とは、主に運動発達(あるいは精神運動発達)を助長することであり、それには運動能力(姿勢の安定性能力、移動能力、物の操作能力)や身体能力(健康な身体、調整力などの運動適性)が含まれている。

「動きを通して学ぶ」とは、認知能力を助長すること、すなわち身体についての意識、周囲や空間の探求・認知能力や視・聴覚運動能力と概念化などの文字や言語に通ずる教科的能力、情緒発達(自己概念の確立、仲間関係)を育てることである。



(図) ムーブメント教育でどのような諸機能が高められるか

(小林芳文氏による)

単に身体的能力の高揚だけでなく、意思伝達能力や認知能力等の学習能力、対人行動能力等の発達をも促進することをねらっている。

小学部のからだづくりの考え方と一致する点が多いため、この教育方法も取り入れていきたい。

### (3) テーマ設定の理由

① 我々は、小学部の子どもたちに力一杯からだを動かさせたり、いろいろな運動を体験させたりすることによって子どもたちのからだづくりをめざしていこうとした。

② 学部テーマを設定するにあたっていろいろな案が出たが、基本的には子どもたちが意欲的に、また、楽しんで動いている姿にこそからだづくりは成立するのだ。楽しい学習の工夫をしていかなければならないということを共通理解し、以下に示す候補が上がった。

- 意欲的に動く子ども
- 楽しんで動く子ども
- 動くことをたのしむ子
- 体を動かすことを楽しむ子
- 調和のある発達をする子

③ 現時点では、どちらかといえば教師が主導権を持って、いろいろな動きを経験し動くことを楽しめるようにする。そのことによってからだを動かす喜びが分かってくる。この時点で楽しんでからだを動かすことをめざしていくという、一番初期の段階である。しかし、そのことが目的ではなく、動くことを楽しむことによって、子どもたちが発達の基礎となる力を蓄えていくことを期待するものである。「からだを動かすことを楽しむ子」のテーマの中には「からだを動かすことによって発達する力を蓄える子」の意味を含んでいる。

現在は、まだ受容的な段階であるが、将来的には能動的により積極的にからだを動かす子ども（楽しんで動く子ども）へと移行することをねらっている。

④ からだという言葉の中には、身体を動かす神経の支配、それをつかさどる脳の働き、行動を制御する内容も含めた意味で使う。

⑤ 以上述べてきた小学部のテーマは、ムーブメント教育の目指す「動きを学ぶ動きを通して学ぶ」という考え方に共通したものがあるといえる。